

戦争が駆け足でやって来る! (その5)

自国民の自由・平等・平和が守れず世界を守れるのか?

沖縄県翁長雄志知事の発言

「日米首脳会談や日米防衛協力指針（ガイドライン）再改定では中東まで視野に入れた積極的平和主義と言っている。中国の最新鋭ミサイルを考慮すれば、沖縄はむしろ近すぎて危ないという指摘もある」「安全保障は日本全体で、と言うのに本土のどこも受けてくれない。沖縄にあるのは他が受けないから。新たに造るのは大変だがすでにあるところは慣れているし振興策でごまかせるだろうと。除染廃棄物の中間貯蔵施設を福島に、というのも同じ発想だ」「改憲より日米地位協定の改定が先だ。日米対等を目指すといいながら、日米合同委員会では恐ろしいくらいの従属関係だ。辺野古問題でも『外交は国の専権だ』と言うなら、日本は本当に独立国家かという点まで議論しなければならない」「人間の生き方として、私たちの不作為で子や孫にまた同じ年月をすごさせるわけにはいかない。沖縄に生まれてきた政治家の宿命だ。ピエロになってもいいから言うべくことを言わないと。身を捨てる気持ちがないとできない。政治家は使い捨て。私のみじめさは何でもないが、県民のみじめさは絶対あってはならない」（5月26日 共同通信インタビュー）

「今日まで沖縄県が自ら基地を提供したことはない…普天間飛行場もそれ以外の基地も全部、戦争が終わって県民が収容所に入れられている間に、県民がいる所は銃剣とブルドーザーで、普天間飛行場も含め基地に変わった。」「一昨年サンフランシスコ講和条約発効の日に、日本の独立を祝う式典が開催されたが、その日は沖縄が日本と切り離された悲しい日だ。安倍総理が『日本を取り戻す』と言うが、取り戻す日本の中に沖縄が入っているのか」

（4月5日 菅官房長官との会談）

「沖縄の風土も、本土の風土も、海も山も空気も風も、すべて国家のものではありません。そこに住んでいる人たちのものです」 菅原文太

憲法無視の戦争法案も辺野古も原発再稼働も、上から目線で粛々と強行されていいのか？
今だけ、カネだけ、私だけ…そして誰も責任を取らない。今この国は歴史のターニングポイントにある。沖縄や福島との連帯を。国のための人民なのか？人民のための国か？